

(参考様式1) 個別施設計画(橋梁)

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
高倉橋	平成5年	盛岡市	農道高倉線 丹藤川	その他 高倉地区	盛岡市薮川	

道路橋示方書	昭和55年	橋の等級(設計荷重)	二等橋 (T-14)	特記事項	その他
--------	-------	------------	------------	------	-----

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	43.1m (20.7m×2径間)		全幅(車道幅員)	6.2m (5.0m)	
	施設の構造	上部工型式	PCプレテンションT橋				
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無	
		橋台工型式	逆T式橋台2基		基礎形式	直接基礎	
		橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
計画策定目的	開拓地整備事業高倉地区によって整備され、盛岡市が管理している高倉橋は、竣工後27年余り経過している。高倉橋は、昭和55年度版の道路橋示方書に準拠し設計されたものである。現在の耐震基準を満たしていないため、耐震化対策が必要である。また、順次耐用年数を迎える時期となることから、詳細点検を実施し、点検結果に応じて長寿命化計画を策定する。						
調査結果概要	現地調査	本橋梁は建設後27年経過している。重大損傷は確認されず、健全度の高い橋梁であると考えられる。桁下部材での漏水が確認される。					
	詳細調査(点検)	上部構造の床版・横桁に漏水や遊離石灰の析出がみられる。橋台にひびわれは見られないが、伸縮部からの漏水が生じている。支承に損傷は見られない。橋面部材は地覆にコンクリート欠損が生じている。伸縮装置にてゴムの劣化による欠損がみられる。					
	劣化原因(推定)	床版・横桁の漏水・遊離石灰は橋面からの漏水によるものと思われる。					
長寿命化対策概要	対策工法(案)	【老朽化対策】 床版防水工は設置されており、桁下の損傷も進行している様子は見られない。下部工の漏水量も少ないため、現段階で対策の必要はないが、漏水量が増加した際は、伸縮装置の交換が望ましい。 【耐震化対策】 現行の道路示方書に基づき、落橋防止構造を設置する。					
	対策時期(案)	【老朽化対策】 竣工後27年経過しているが、重大な損傷は生じていない。上部工の漏水は進行している様子は見られないが、下部構造の漏水はゴム劣化によるもので量が増加してからの対処で良いものである。 【耐震化対策】 路線の重要度及び他橋梁と比較して優先度を考慮の上、適時、耐震化対策を実施する必要がある。					
	対策費用(参考)	【老朽化対策】 伸縮装置交換(非排水) 2000千円 【耐震化対策】 落橋防止工(2基) 2000千円					
管理方法	上部工の漏水・遊離石灰は損傷が進行している様子は見られず、損傷を経過観察する。下部構造の伸縮部からの漏水は他に損傷がなく、内部への水分浸透の可能性は低い。漏水量が増加した際は対策が望ましい。						

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(長寿命化)(百万円)							2		2	
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期	定期点検					定期点検	伸縮装置 交換		落橋防止工	

長寿命化計画による効果

○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。

(参考様式1) 個別施設計画(橋梁)

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
曾利田橋	平成10年	盛岡市	農道中村線 築川	農村総合整備 築川地区	盛岡市築川	

道路橋示方書	平成6年度版	橋の等級(設計荷重)	二等橋 (A活荷重)	特記事項	その他
--------	--------	------------	------------	------	-----

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15m(14.1m)		全幅(車道幅員)	7.7m(6.5m)
	施設の構造	上部工型式	PCプレテン床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無
		橋台工型式	重力式橋台2基		基礎形式	直接基礎
		橋脚工型式	—		海岸からの距離	—
計画策定目的	農村総合整備777事業盛岡地区によって整備され、盛岡市が管理している曾利田橋は、竣工後22年余り経過している。曾利田橋は、平成6年度版の道路橋示方書に準拠し設計されたものである。現在の耐震基準を満たしていないため、耐震化対策が必要である。また、順次耐用年数を迎える時期となることから、詳細点検を実施し、点検結果に応じて長寿命化計画を策定する。					
調査結果概要	現地調査	本橋梁は建設後22年経過しているが、大きな損傷も確認されなかったことから、比較的健全度が高い橋梁であると考えられる。 路面・排水管に土砂詰まり、伸縮装置に欠損がみられるが、軽度な損傷で橋梁への影響は見られない。				
	詳細調査(点検)	上部構造は健全である。 橋台の堅壁に幅0.15mmのひびわれがみられるが漏水は見られない。 路面・排水管に少量の土砂詰まり、伸縮装置のコンクリート部に欠損がみられる。				
	劣化原因(推定)	橋台のひび割れはコンクリート打設時の初期ひびわれと推定される。 路面にみられる損傷は工事車両の走行の影響と思われる。				
長寿命化対策概要	対策工法(案)	【老朽化対策】 路面・排水樹の土砂詰まりの除去。排水機能の回復。  【耐震化対策】 現行の道路示方書に基づき、落橋防止構造を設置する。				
	対策時期(案)	【老朽化対策】 道路橋の機能に支障は生じていない。路面にみられる損傷から他部材へ影響を及ぼす可能性があるため、土砂の堆積量が増加した際は、維持管理にて清掃を実施する。 【耐震化対策】 路線の重要度及び他橋梁と比較して優先度を考慮の上、適時、耐震化対策を実施する必要がある。				
	対策費用(参考)	【老朽化対策】 路面清掃 維持清掃  【耐震化対策】 落橋防止工(2基) 2000千円				
管理方法	管理方法	路面にみられる損傷から他部材へ影響を及ぼす可能性があるため、土砂の堆積量が増加した際は、維持管理にて清掃を実施する。现阶段では橋梁機能への影響は見られないため、経過観察を行う。				

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(長寿命化)(百万円)							2			
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期	定期点検	← 路面清掃 →					定期点検	← 落橋防止工 →		

## 長寿命化計画による効果

○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。

(参考様式1) 個別施設計画(橋梁)

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
平間口橋	平成12年	盛岡市	農道中村線 築川	農村総合整備 築川地区	盛岡市築川	

道路橋示方書	平成6年度版	橋の等級(設計荷重)	二等橋 (A活荷重)	特記事項	その他
--------	--------	------------	------------	------	-----

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15.9m(15.0m)		全幅(車道幅員)	6.2m(5.0m)
	施設の構造	上部工型式	PCプレテン床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無
		橋台工型式	重力式橋台2基		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
計画策定目的	農村総合整備777事業盛岡地区によって整備され、盛岡市が管理している平間口橋は、竣工後20年余り経過している。平間口橋は、平成6年度版の道路橋示方書に準拠し設計されたものである。現在の耐震基準を満たしていないため、耐震化対策が必要である。また、順次耐用年数を迎える時期となることから、詳細点検を実施し、点検結果に応じて長寿命化計画を策定する。					
調査結果概要	現地調査	本橋梁は建設後20年経過している。重大損傷は確認されず、健全度の高い橋梁であると考えられる。路面部材に軽微な欠損がみられる程度である。				
	詳細調査(点検)	上部構造は健全である。橋台にひびわれや漏水は見られない。橋台翼壁にコンクリート欠損がみられる。支承に損傷は見られない。橋面部材は地覆にコンクリート欠損が生じている。				
	劣化原因(推定)	翼壁・地覆のコンクリート欠損は車両の接触によるものである。				
長寿命化対策概要	対策工法(案)	【老朽化対策】 特に必要なし。車道幅員は5.0mであり、現在大型車両の往来が多く、大型車両と一般車両のすれ違いは困難である。新規損傷(車両接触)に注意が必要である。 【耐震化対策】 現行の道路示方書に基づき、落橋防止構造を設置する。				
	対策時期(案)	【老朽化対策】 竣工後20年経過しているが、桁下への漏水は見られず重大損傷が発生する環境にない。対策の必要はしばらくはないと思われる。 【耐震化対策】 路線の重要度及び他橋梁と比較して優先度を考慮の上、適時、耐震化対策を実施する必要がある。				
	対策費用(参考)	【老朽化対策】 特になし。 【耐震化対策】 落橋防止工(2基) 2000千円				
管理方法	一般に欠損部や伸縮部より桁下へ水分が浸透し、影響を及ぼしていくが、現段階では損傷の発生可能性は低いと思われる。経過観察の実施とする。					

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(長寿命化)(百万円)							2			
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期	定期点検					定期点検	←落橋防止工→			

## 長寿命化計画による効果

○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。

## (参考様式1) 個別施設計画(橋梁)

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
巻堀橋	令和4年度	盛岡市	農道巻堀線 北上川	巻堀2期地区	盛岡市巻堀	

道路橋示方書	平成24年	橋の等級(設計荷重)	A活荷重	特記事項	その他
--------	-------	------------	------	------	-----

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	49.7m(49.7m×1径間)		全幅(車道幅員)	5.0m(5.0m)
	施設の構造	上部工型式	PCプレテンションT橋			
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無
		橋台工型式	逆T式橋台2基		基礎形式	直接基礎
		橋脚工型式	—		海岸からの距離	—
計画策定目的	岩手県盛岡広域振興局盛岡農村整備室によって整備され、令和6年度に引継ぎを受け、盛岡市が管理している巻堀橋は、竣工後3年余り経過している。巻堀橋は、平成24年度版の道路橋示方書に準拠し設計されたものである。順次耐用年数を迎える時期となることから、詳細点検を実施し、点検結果に応じて長寿命化計画を策定する。					
調査結果概要	現地調査	本橋梁は建設後3年経過している。重大損傷は確認されず、健全度の高い橋梁であると考えられる。				
	詳細調査(点検)	重大損傷は確認されず、健全度の高い橋梁であると考えられる。				
	劣化原因(推定)	重大損傷は確認されず、健全度の高い橋梁であると考えられる。				
長寿命化対策概要	対策工法(案)	【老朽化対策】 床版防水工が施されており、桁下の損傷も進行している様子は見られない。 【耐震化対策】 現行の道路示方書に基づき、落橋防止構造を設置する。				
	対策時期(案)	【老朽化対策】 重大な損傷は生じていない。 【耐震化対策】 路線の重要度及び他橋梁と比較して優先度を考慮の上、適時、対策を実施する必要がある。				
	対策費用(参考)	【老朽化対策】 伸縮装置交換(非排水) 2000千円 【耐震化対策】 落橋防止工(2基) 2000千円				
管理方法	上部工の漏水・遊離石灰は損傷が進行している様子は見られず、損傷を経過観察する。					

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(長寿命化)(百万円)										
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期				完成		引継			定期点検	

## 長寿命化計画による効果

○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。